

購買力平価に基づく AMU 乖離指標及びバラッサ・サミュエルソン効果を 考慮に入れた修正 AMU 乖離指標

一橋大学 小川 英治
一橋大学大学院生 王 志乾

本稿は、東アジア諸国通貨のサーベイランスのための AMU 乖離指標について、2000～2001 年に固定した従来のベンチマーク為替相場を時間に通じて変化する購買力平価に変更することによってどのように改善されるかを明らかにする。購買力平価に基づく AMU 乖離指標のベンチマーク為替相場は消費者物価指数を用いて計算した購買力平価を使用している。消費者物価指数に非貿易財価格が含まれているため、消費者物価指数を用いて計算した購買力平価はバラッサ・サミュエルソン効果を伴う可能性がある。したがって、消費者物価指数を物価水準として用いた時、バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた購買力平価を AMU 乖離指標のベンチマーク為替相場として使用すべきである。そこで、購買力平価に基づく AMU 乖離指標に加えて、バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた修正 AMU 乖離指標も提示した。両者の比較及び実証分析の結果から、相対的にインフレの高い国の通貨は、従来の名目 AMU 乖離指標に比べて、バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた修正 AMU 乖離指標は過大評価となる傾向があり、相対的にインフレの低い国の通貨は、従来の名目 AMU 乖離指標に比べて、バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた修正 AMU 乖離指標は過小評価となる傾向がある。月次データとなる購買力平価に基づく AMU 乖離指標及びバラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた修正 AMU 乖離指標は、従来の日次データの名目 AMU 乖離指標と共に、東アジア地域における為替相場に対するサーベイランスのための補完的な指標となることが期待される。